

# 日本書道史

## 第8講「和様の個性化と『墨跡』」

住川 英明（岐阜女子大学）

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 【学習到達目標】

- 名称に「伝」のついた古筆を例として、その名称と分類の意義について、概括的に説明することができる。
- 「流」や「様」をもって語られる代表的な書流と秘伝書について、概括的に説明することができる。
- 「墨跡」の代表的な作例について、中国書法の影響に触れながら、具体的に説明することができる。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 1. 古筆の伝称筆者と系統的分類

- 近世以降，古筆を愛好する習慣が広まるとともに，「手鑑」が作られ愛蔵されるようになった。
- 茶の湯が盛んになるとともに，茶席の床に古筆が用いられるようになり，卷子本や冊子本の書跡が裁断され，「切」として散佚することとなった。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 1. 古筆の伝称筆者と系統的分類

- 関白豊臣秀次が、古筆の鑑識に詳しかった平澤弥四郎（了佐）に古筆姓を与え、「琴山」という金印を与えてから、代々「古筆家」が鑑定にあたった。
- その鑑定は、数多く伝わる古筆を分類する上では、現在でも一定の価値を有している。すでに大体の系統的分類が行われていると考えられるため、現在でも「伝〇〇」という言い方が踏襲されている。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 2. 書流の展開と秘伝書

- 鎌倉時代以降，書き手の好尚は，大らかで優しい，筆力を内に含んだ美しさから，速さと鋭さのある，筆力を外へ展開する美しさへと変化した。
- 先人との関わり方を自らの感じ方や考え方の根拠として強く意識し，主張することによって，いわゆる「流儀書道」が生まれることになった。

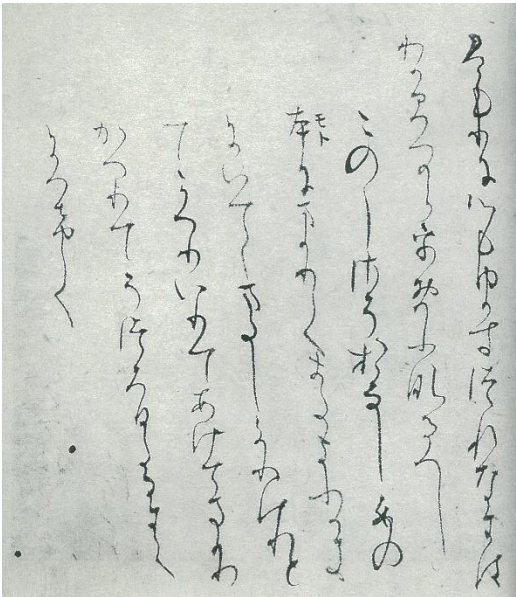
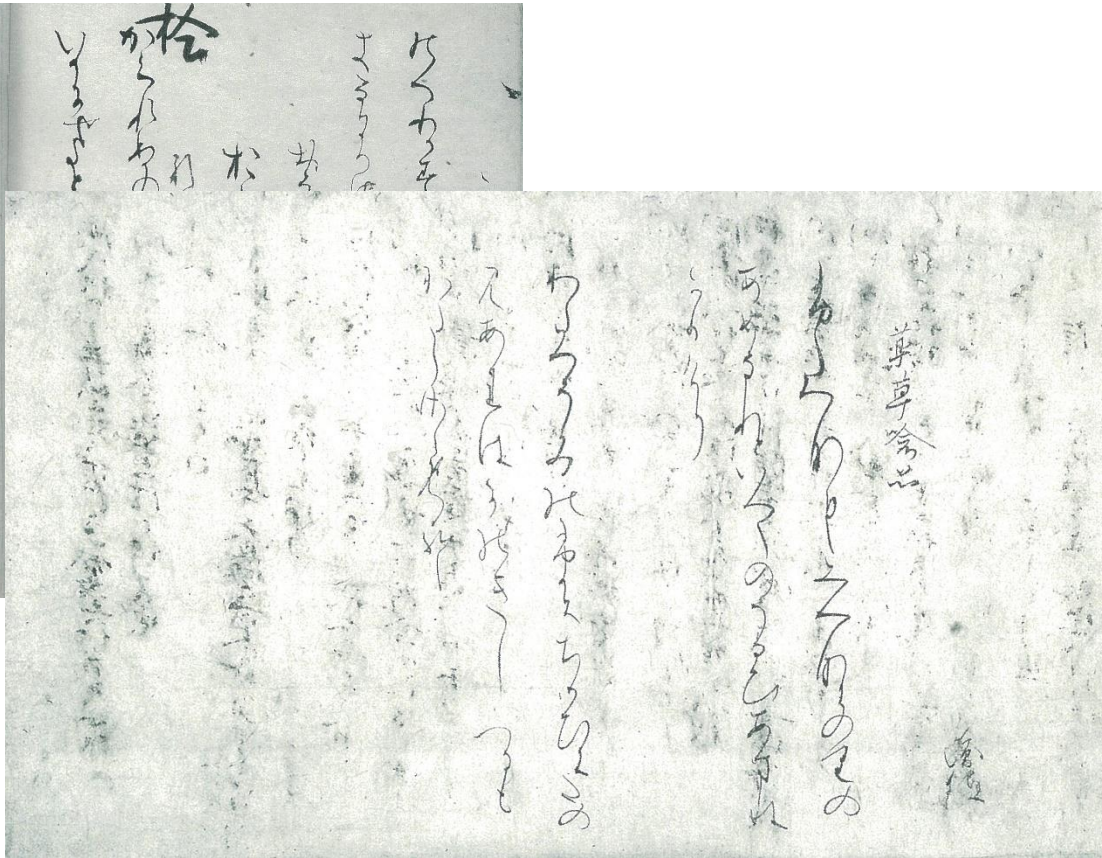
# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 2. 書流の展開と秘伝書

- 代表的な流派（書流）として、藤原行成の孫、藤原伊房からその子定実、定信、伊行へと続く「世尊寺流」が挙げられる。
- 他にも、藤原忠道に始まる「法性寺流」、忠道の孫であった九条（後京極）良経に始まる「後京極流」などがある。
- 代表的な書論書（あるいは秘伝書）には、平安末期の藤原伊行『夜鶴庭訓抄』や藤原教長『才葉抄』、鎌倉時代以後の尊円親王『入木抄』などがある。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

西行《一品経和歌懐紙》



伝西行《一条撰政集》(部分)

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

藤原定家《土佐日記》

いかにもあはれなる日記のつと  
 なるにさして心なむとす  
 草や花のまじりては教のまじ  
 りはかむとすの日のぬれは  
 かくて教のまじりてはかむと

古今和歌集卷第一

春三上

春三上  
 春三上  
 在厚九方

年乃日は春なきまはるはせさるるや  
 えあしちんらるるよめ

紀貫之  
 春三上

神はちしよりよのほたる春三上は  
 よしん

春霞をうやうやんとの山の音は  
 二条のまはるのまよふめ

雪の内は春なきまはるはせさるる  
 雪の木のあはれなるを

梅のまはるのまよふは春か  
 雪の木のあはれなるを

春のまはるのまよふは春か  
 春のまはるのまよふは春か

心やあはれなるまはるのまよふは  
 春のまはるのまよふは春か

春のまはるのまよふは春か  
 春のまはるのまよふは春か

心やあはれなるまはるのまよふは  
 春のまはるのまよふは春か

春のまはるのまよふは春か  
 春のまはるのまよふは春か

藤原定家《古今和歌集》

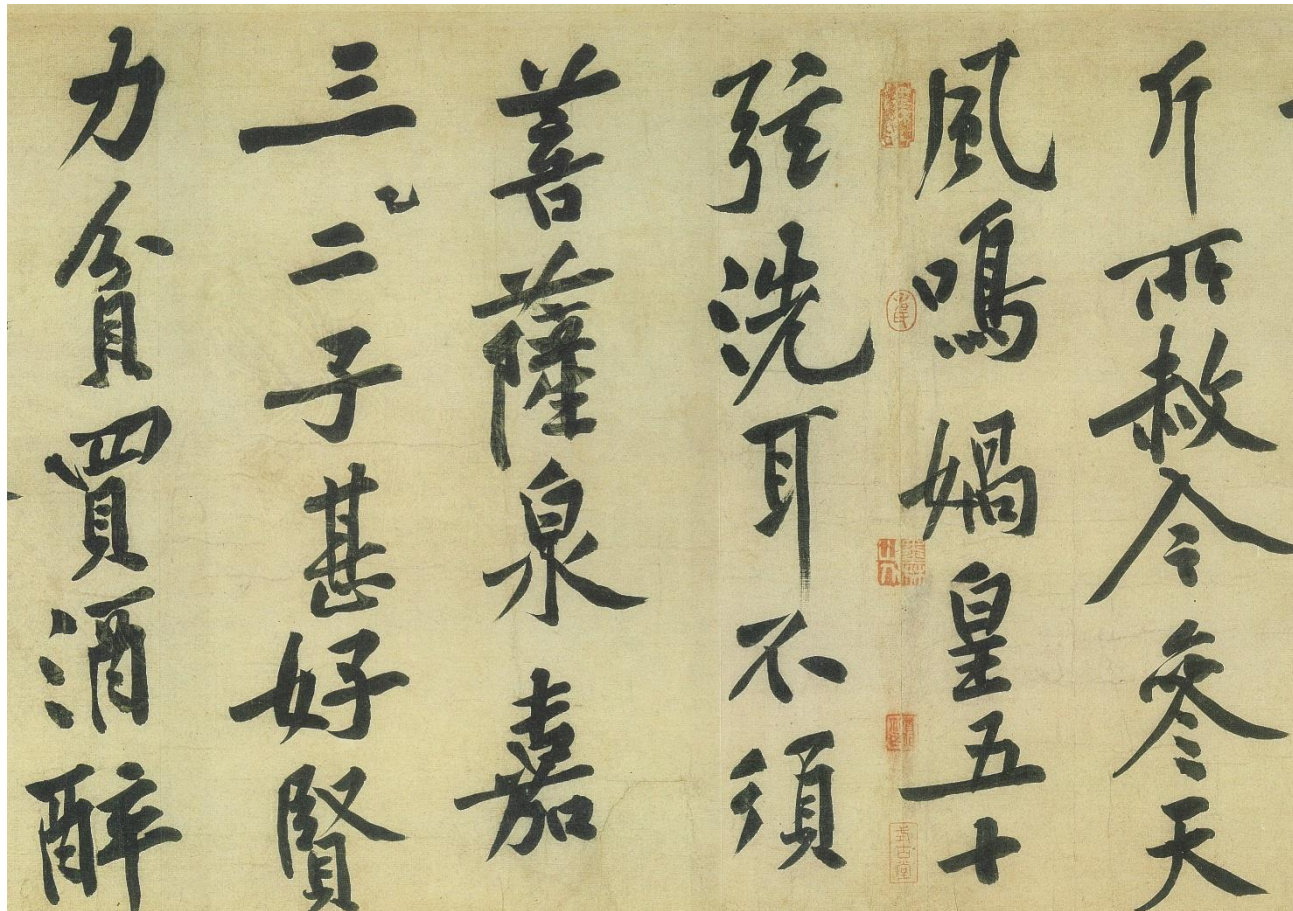


# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 3. 「墨跡」と中国書法

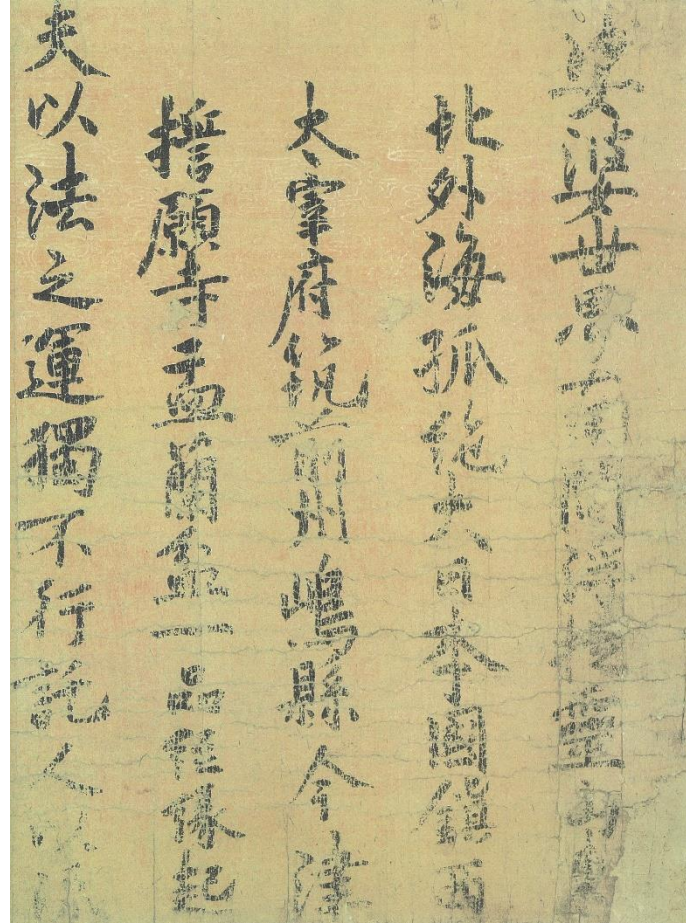
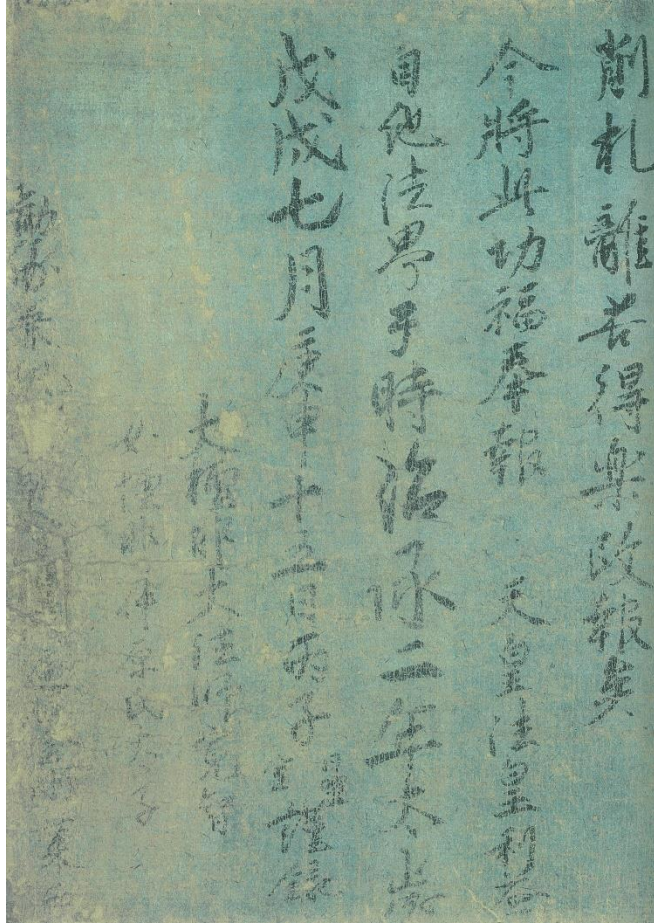
- 鎌倉時代の文化の担い手は、貴族官僚（役人）から禅宗の高僧たちへと変化した。この頃から江戸時代の初め頃までの禅僧の筆跡を「墨跡」と呼んでいる。
- 禅僧の書は、宋代の書法、とりわけ北宋の黄庭堅や南宋の張即之の書風の影響を受けている。
- 鎌倉から室町時代にかけての墨跡には、境涯や禅機が溢れているが、同時に、書としての正しさ、格から外れない書技の高さをうかがうことができる。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」



黄庭堅《松風閣詩卷》（部分）

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」



宋西 《誓願寺孟蘭盆緣起》 (部分)

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

張即之《金剛般若經》（部分）

金剛般若波羅蜜經  
如是我聞一時佛在舍衛  
國祇樹給孤獨園與大比  
丘衆千二百五十人俱爾  
將世尊食時著衣持鉢入  
舍衛大城乞食於其城中  
次第乞已還至本處飯食  
訖收衣鉢洗足已敷座而  
坐  
時長老須菩提在大衆中  
即從座起偏袒右肩右膝  
著地合掌恭敬而白佛言  
希有世尊如來善護念諸  
菩薩善付囑諸菩薩世尊  
善男子善女人發阿耨多  
羅三藐三菩提心應云何  
住云何降伏其心佛言善  
哉善哉須菩提如汝所說  
如來善護念諸菩薩善付

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

道元《普勸座禪儀》（部分）

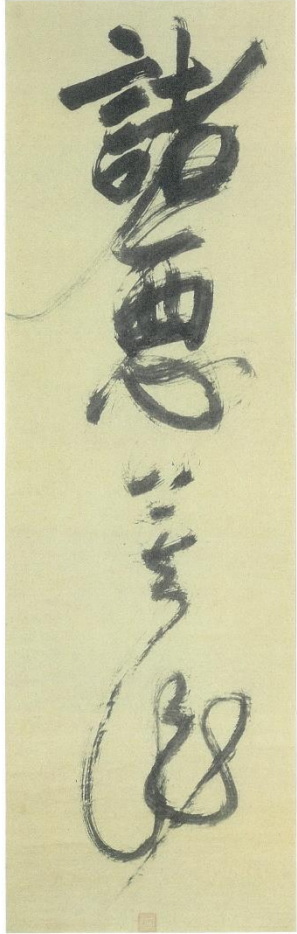
普勸坐禪儀

入宋傳法沙門道元撰

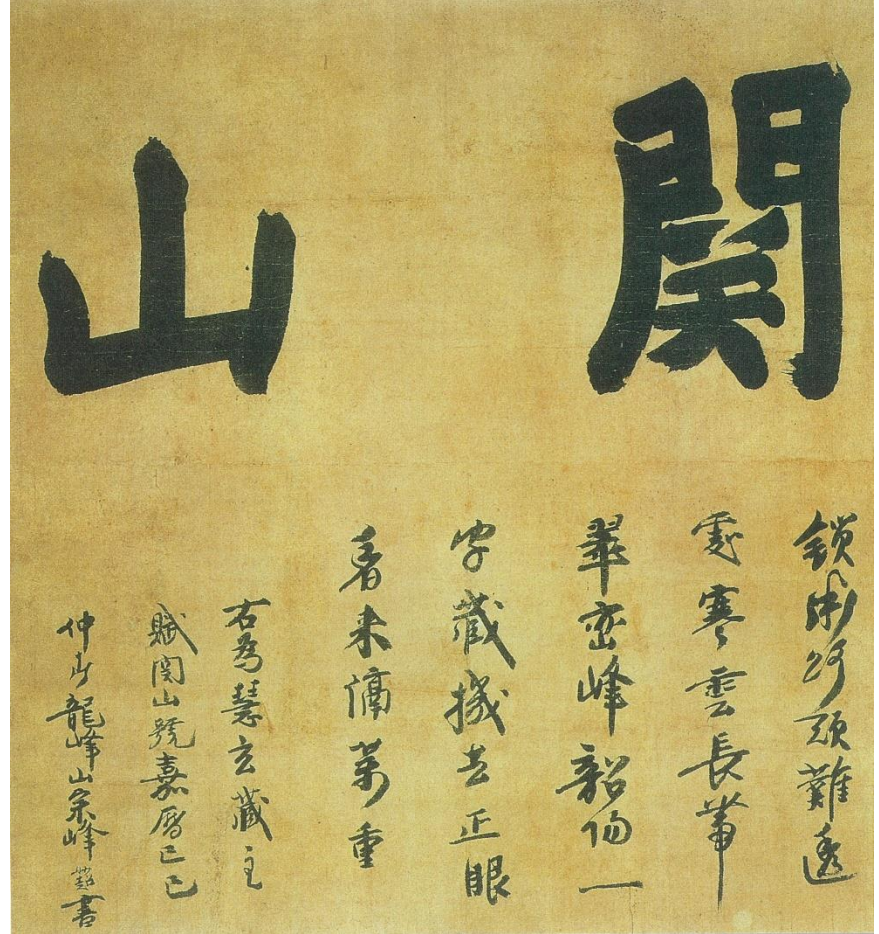
原夫道本圓通。非假修證。  
宗乘自在。何費功夫。況乎  
全體迥出。塵埃孰信。拂拭之

手段。大都不離當處。豈用  
修行之脚頭。然而毫釐。更有  
差天地懸隔。違順。纔起紛然。  
失心。須知歷劫輪迴。還因擬議。  
之一念。塵世迷道。復由商量。  
之無休。欲超向上之徹底。唯

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」



一休宗純 《諸悪莫作 衆善奉行》



宗峰妙超 《関山号》

# 課題

1. いわゆる「流儀書道」の功罪について、代表的な書流と秘伝書を例に挙げて、考察しなさい。
2. 「墨跡」の代表的な作例について、中国宋時代の書の影響に触れながら、まとめなさい。

# 第8講 「和様の個性化と『墨跡』」

## 【学習到達目標】

- 名称に「伝」のついた古筆を例として、その名称と分類の意義について、概括的に説明することができる。
- 「流」や「様」をもって語られる代表的な書流と秘伝書について、概括的に説明することができる。
- 「墨跡」の代表的な作例について、中国書法の影響に触れながら、具体的に説明することができる。



# 日本書道史

## 第8講「和様の個性化と『墨跡』」

住川 英明（岐阜女子大学）